

地磁気・古地磁気・岩石磁気研究会 活動報告

望月伸竜(熊本大学)

本研究会の活動のひとつとして、今年も以下のとおり研究集会を行ったのでここに報告する。

第 43 回地磁気・古地磁気・岩石磁気夏の学校

日時：平成 23 年 9 月 4 日～6 日

会場：阿蘇白雲山荘(熊本県阿蘇市)

主催：地磁気・古地磁気・岩石磁気研究会 後援：熊本大学

この活動は、“夏の学校”という名前がついているが、合宿型の研究集会である。今年で少なくとも 43 回を数える(本研究会のホームページを参照：

<http://peach.center.ous.ac.jp/bunka/m-kaigou/m-summerschool.html>)。今年は、37 名の研究者(教員・研究者 16 名、学生 21 名)が阿蘇の赤水温泉に集まり、14 件の口頭発表・12 件のポスター発表・1 件の招待講演が行われた。参加者からは各発表に対して多数の質問・疑問・コメントが出され、活発な議論が展開された。口頭発表には 1 人 30 分(招待講演には 60 分)を配分していたが、例年通り、時間を厳守することではなく議論を深めることを最も心掛けた。発表内容は、最新の研究成果を報告するもの、学生向けのレビューを含めたもの、などさまざまであった。

この分野の特長のひとつともいえるかもしれないが、発表の話題・研究手法は多岐にわたっていた。地磁気・古地磁気・岩石磁気そのものの研究に加えて、テクトニクス、古環境変動、火山噴出物、宇宙線生成核種、月・火星磁場、ダイナモ、についての研究発表があった。また、我々の研究分野に関連した話題で研究成果を挙げている横山祐典氏(東京大学大気海洋研究所)に招待講演を依頼した。「南極氷床コア中の宇宙線照射生成核種を使ったラシヤンプおよびブレイクエクスカッションの高精度復元」と題した招待講演には、参加者からの質問も多く、宇宙線生成核種の変動が捉えうる現象について理解を深めることができた。講演依頼を快諾してくださった横山氏に心から感謝する。

2 日目の午後には、阿蘇の火山地質を観察する巡検を渋谷秀敏氏(熊本大学)の案内で行った。巡検のルートは、大観峰、草千里、上米塚スコリア丘、米塚、立野溶岩の柱状節理であった。当日は天候に恵まれ、大観峰にてカルデラの全景が良く見え、草千里にて島原(雲仙)まで見通せるなど、火山地形の観察には最適であった。

来年の夏の学校は、井口博夫氏(兵庫県立大学)を世話人に開催されることが決まった。井口氏からは玄武洞などのジオパークの紹介があった。

夏の学校の世話人を担当したことで、この研究集会は地磁気・古地磁気・岩石磁気分野の研究者の基礎体力になっていることを認識した。阿蘇での夏の学校の開催にあたり、ご協力くださった皆様に感謝したい。



集合写真



ポスターセッションの様子